

ご案内

## 国立歴史民俗博物館に「赤羽台団地」の住戸が再現



赤羽台団地のスターハウス（建替前）

戦後の高度経済成長の時代。大都市の住宅不足を背景に建設された鉄筋コンクリートの集合住宅「団地」は、集まって住むという住まいの形態だけでなく、ダイニングキッチン、ステンレス流し台、水洗トイレなど、暮らし方の革命でした。50棟、3000戸を超えるマンモス団地 赤羽台団地（東京都北区）はその代表的なものです。千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館では今年3月にオープンした総合展示「現代」において、戦後の生活革命をテーマに当時の赤羽台団地2DKの一室を設計図をもとに忠実に再現。水周りの設備や表札なども建替事業が進む現地から実際に運び込み、多様な生活用具とともに展示され、改めて「公園住宅」が注目を集めています。



ステンレス流し台



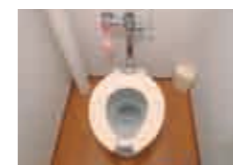
ダイニングキッチン



お風呂場



ベランダに置かれた洗濯機



水洗トイレ



表札

### 国立歴史民俗博物館

日本の歴史と文化について総合的に研究・展示している大学共同利用機関法人人間文化研究機構の施設。千葉県佐倉市の佐倉城址の一角、35,000㎡の壮大な規模の歴史の殿堂です。愛称は「歴博」。1983年（昭58）開館。



開館時間 3月～9月 9:30～17:00  
10月～2月 9:30～16:30  
休館日 月曜定休（月曜祝日の場合火曜）  
年末年始 12/27～1/4  
入館料 一般 420円（350円）  
高校・大学生 250円（200円）  
小学・中学生 無料

所在地 千葉県佐倉市内町117  
お問合せ 043-486-0123(代)  
URL <http://www.rekihaku.ac.jp/>



情報

## 投資家等説明会の開催

2月5日（金）、東京・大手町サンケイプラザにて借入金金融機関、債券投資家、アナリスト等を対象に投資家等説明会を開催しました。UR都市機構では年2回、定期的に説明会を開催しており、今回は60社95名の参加がありました。今回の説明会では、平成21年度決算見通し、平成22年度予算、独立行政法人の見直しなどについて説明を行いました。UR都市機構の経営に関する事項に関しては金融機関等から常に注目を集めています。今後も社会の要請に応えるため、投資家等説明会をはじめとして、IR活動を一層充実させていきたいと考えています。



説明会の様子



小川理事長

UR IR で **検索** してください。

[http://www.ur-net.go.jp/ir/info\\_toushika.html](http://www.ur-net.go.jp/ir/info_toushika.html)

ご案内

## 都市住宅技術研究所で特別公開



※ルネッサンス計画  
昭和30・40年代に建設された住棟を有効活用するための実験的試み。計画1は改修技術開発というハード面、計画2は住棟の新たな活用方法というソフト面での再生手法を検討している。

『ルネッサンス×ふれあつて暮らす〜団地再生とコミュニティの再生』をテーマに、現在進められている「ルネッサンス計画」や、高齢社会への取り組みについてご紹介します。また、ひばりが丘団地の現地公開も行います。ぜひご来訪ください。

開催日時 **5月21日（金）・22日（土）**  
10時から17時（入場は16時まで）  
（ひばりが丘現地公開は20日（木）から行います。）

UR 特別公開 で **検索** してください。

<http://www.ur-net.go.jp/rd/>



建築・照明・ランドスケープの設計者・デザイナーが一堂に会して行う「デザイン会議」



排水たて管取替えユニットシステム



イチョウ通りに開かれた中庭と中庭を囲む交流スペース（模型イメージ）

建替事業が進む赤羽台団地で、現在建設中の「ニューヴェル赤羽台B・C街区」では、良質な住宅ストックの普及を目的に、国土交通省が住宅供給者を対象に募集した「長期優良住宅先導的モデル事業」に採択され、評価された先導的提案の実現に取り組みんでいます。共用排水管の取り替えやすさや間取りの可変性の確保、複数の住棟による景観調整（「デザイン会議」の実施）、豊かな緑資源の活用などの先導的提案の実現により、数世代にわたり、優良な住宅ストックであり続けることを目指しています。

## ニューヴェル赤羽台の長期優良住宅先導的モデル事業

Cover Photo



バルテノン多摩（東京都多摩市）  
バルテノン多摩の大階段を登りきると現れるゲート。ステンレスの柱に空の色が反射して美しい。奥に見えるのは多摩中央公園の緑。

## 編集後記

春といえば新しい住まいで新生活を始める方も多い季節です。今号では、そんな「住まい」にフォーカスし、目下の課題である「少子高齢社会の都市と住宅」をテーマに特集を企画しました。これからの時代に求められるのはどのような都市と住宅か、またそれを実現するためにはどのような仕組みが必要か。作家の幸田真音さんを聞き手に、都市計画の専門家である黒川洸さんにお話を伺いました。

UR都市機構では、前身の日本住宅公団の時代から、多くの住まいを創り出してきました。インフォメーションでご紹介しました赤羽台団地のように、時代の要請に耳を傾け、これからの時代に必要な住まいを提供していくのが、昔も今も、私たちUR都市機構の使命であると考えています。

今後ともUR都市機構に変わらぬご理解とご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

季刊「ユアールプレス・春号」  
Vol.23（2010年4月）

発行 独立行政法人都市再生機構  
〒231-8315 神奈川県横浜市中区本町6-50-1  
横浜アイランドタワー  
Tel. 045-650-0881  
Fax. 045-650-0889

編集・制作 (株)日本経済社  
印刷 (株)ぎょうせい